

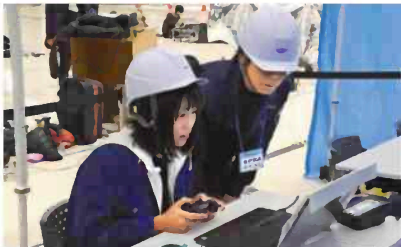
若い「技と知」覚悟の挑戦

高専生の廃炉ロボコン

1面から続く

ロボット製作期間は実質、3カ月。金子氏の力を借りながらほぼ毎日、午後10時半ごろまで学校に残り、試行錯誤を繰り返す。

まだ動きもしないロボットにこんな名前をつけた。「RITORNO（リトルノ）」。イタリア語で帰還を意味する。原子炉内の過酷な環境を乗り越え、ちゃんとミッションを終えて戻ってきてほ



しいという願いを込めた。12月3日の開催日の数日前はほぼ徹夜。実際にリトルノが操作通りに動いたのは開催当日朝、会場だった。

果たして結果はどうだったのか。リトルノは残念ながら階段を1つも登ることなく競技を終えた

が特別賞を受賞。原子炉建屋の電波の受信環境を考慮して搭載した複数の通信基地局を分離することで遠隔操作の距離を伸ばし、現場の撮影を可能にしたアイデアが評価された。ペアリングを2つ使い、ホイール部とLANケーブルドラムの回転を独立させ、実現した。

13高専、15チームが挑んだ大会。放射線に弱い

ロボットを遠隔操作する富山高専の市井さん（左）とサポーターの金子慎一郎准教授

半導体を用いず機械的継電器の回路で制御したロボット、風船にヘリウムガスを注入しその浮力で前進するロボットなど、少ない予算で工夫する若い「技と知」が挑んだ。

優秀賞を受賞した奈良高専の外山仁大さんは

「自分たちが設計したロボットで、廃炉という問題に関心を持つようになると意図がある」と

廃炉創造ロボコンの意義を語る。外山さんは今春、キャンピングカーの東芝メディカルシステムズに入社した。「市井さんのような覚悟を持っていかは廃炉の仕事と向き合いたい」と力強く語る。まる。

「自分たちが設計したロボットで、廃炉という問題に関心を持つようになると意図がある」と

廃炉創造ロボコンの意義を語る。外山さんは今春、キャンピングカーの東芝メディカルシステムズに入社した。「市井さんのような覚悟を持っていかは廃炉の仕事と向き合いたい」と力強く語る。まる。

高専の出身者が企業などから注目されるのは、中学卒業後から5年一貫で専門教育をたたき込まれることによる質の高さがあるからだ。理論に加え、実験・実習を重視した教育で技術も磨かれる。日本のモノ作りが空洞化することへの危機感が募るなかで、高専生の技術、行動力と職業意識の高さが求められている。そして今、20歳が挑む40年の廃炉との闘いも始まる。

高専出身者が企業などから注目されるのは、中学卒業後から5年一貫で専門教育をたたき込まれることによる質の高さがあるからだ。理論に加え、実験・実習を重視した教育で技術も磨かれる。日本のモノ作りが空洞化することへの危機感が募るなかで、高専生の技術、行動力と職業意識の高さが求められている。そして今、20歳が挑む40年の廃炉との闘いも始まる。